

# 尽きない春が架け橋となる

北京林業大学学生代表

見学日時：2018年12月3日（月） 14:00-15:30

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館

## 見学概要

2018年12月3日、中日友好協会の関湧理事を団長とする第23回「走近日企・感受日本」中国大学生代表団は中国駐日大使館を訪れた。

そして大使館を代表して律桂軍公使参事官から私たち代表団の訪問への歓迎をいただいた。

その後、6大学の代表者が日本滞在期間中の感想についてそれぞれ発言を行った。北京大学の高乾さんは「製造業を希望する人が減っているのはなぜか」というタイトルで自身の感想を述べ、さらに「人類の新時代を迎えるにあたり、異なる文化が互いに学び、受け入れあう必要がある」との意見を述べた。北京師範大学の陳心如さんは企業の社会的責任感について自身の意見を述べた。北京外国



語大学の周戈さんはホームステイの感想についての紹介と、現在の状況を踏まえ如何に中国を紹介し、日中両国民の心と心の距離を近づけるかについての意見を述べた。中国農業大学の康慧薇さんは農業の見地から中国国内の農業の現状等について探求し、さらに人材の浪費について話題を広げ自身の実感を述べた。北京科技大学の劉哲さんは「日本の環境、国民、社会」の3つの面から自身の実感を述べた。北京林業大学の楊騰紫さんはJA全農における殺処分した害虫への追悼、日本社会における「万物には魂が存在する」等の観点から、日本の生命や自然への畏敬の念を紹介し、さらに日中の森林カバ率の比較を行い、学校で教わった「美しい国土を創造する」との教えを胸に刻み、環境事業にささやかな貢献をしていく意向を示した。

6大学の代表者の発言が終わった後、律桂軍公使参事官は学生への期待を述べられ、また日中両国の文化や技術交流を振り返り、日中関係の歴史、現状そして未来についての見方を示すと同時に、「今年は改革開放及び日中平和友好条約締結40周年で、日中関係はすでに正しい軌道に乗り良好な状態を維持している。日中双方はグローバル化の推進、自由な多国間貿易体制の維持等について積極的な提携を実施する」との意向を強調された。

最後に、代表団全員が大使館前で記念写真を撮影した。

## なぜですか？

日中両国は将来的な二国間貿易の拡大が可能だけでなく、第三国との多角的提携も現在積極的に推し進めている。伊藤忠商事は中国中信グループと提携し、ドイツでの海上風力発電プロジェクトへの投資を拡大している。中国投資は三菱UFJフィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ等企業と「戦略提携に関する覚書」を締結した。日中両国の将来的な提携の前途は無限である。



## 感想

「ここ（大使館）に着いたら帰宅と同じ」という律公使参事官の言葉は今でも私の脳に刻まれている。わずか8日間の日本滞在ではあったが、私たちは異国の地での望郷の思いや強い帰属感というものを感ずることができた。律公使参事官のお話を通じ、私たちは現在の日中関係や新時代における大学生として負うべき責任について、より明確な認識が得られ、今後日中関係を平和的共存や長きにわたる友好、相互利益提携の方向へと推し進める必要があると思った。

新たな情勢において私たちは日本への見方を正さなければならず、新たな学習のプロセスを始める必要がある。小さなものでは、日本での生活において自ら体験した水溶性のトイレトペーパーについてはすぐにでも取り入れるべきで、大きなものでは、日本の進んだ社会統治の経験、環境保全技術そして自然への畏敬の心などは私たちが学ぶべきである。それと同時に私たちは新たな相互利益提携の実施を考える必要がある。日中両国はアジアの金融の安定、自由貿易の維持及び多国間経済体制における提携を行い、共に一帯一路の安定的発展を促進し、大国としての在り方を示し、アジアの繁栄そして世界の平和のために貢献をしていく必要がある。